

PROGRAM NOTE

JSWC (日本短波クラブ) 60周年記念 湘南ミーティング

6月10日(日) JR大船駅から歩いて5分の所にある鎌倉市たまなわ交流センターの第2集会室に日本短波クラブの面々が集まり湘南ミーティングが開催されました。

この日は、日本短波クラブの次期役員
の信任投票の開票作業を行う重要な日
であり、関東周辺に住む会員の皆様が
多く会場に集まりました。また、今年
2012年は、設立60周年を迎える
日本短波クラブにとって重要な年でも
あり、いろいろな行事を計画している
とのことでした。



その行事の一つとして海外日本語放送局の協力を得て、日本短波クラブ60周年記念番組を放送すること。既にKBS WORLD Radio、ベトナムの

声、IRIB、CRIなどの各国の国営放送局が60周年記念をお祝いすること、HCJBも特別番組を編成することになりました。

会員の皆さんが多く集まるとのことなので、早速、湘南ミーティングに参加させて頂き、インタビュー番組の収録をさせていただきました。最初は、事務局を代表して、大武さんに日本短波クラブの歴史、開設当時のクラブの状況、BCLブーム当時のクラブの様子、海外のDXクラブとの交流、海外向け番組の提供、現在の会の運営状況等など、貴重なお話を聞かせて頂きました。そのあとは、集まって頂いた会員の皆さんに、1) 日本短波クラブに入会したきっかけ、2) 日本短波クラブに入って良かったと思うこと、3) 現在のBCL



クラブの歴史

第二次大戦中、海外情報を直接入手できる短波放送の受信は禁止されていたが、戦後その解禁とともに、米軍の軍用余剰品(ジャンク)や解体された日本軍の無線機、そしてその部品を利用したラジオ作りが、科学心のある青少年たちの大きな遊びの場になった。自作の受信機を使った海外短波受信は、その遠隔性(DX)が競われ、無線雑誌も、この潮流を大いに刺激した。

そんな中、仙台の学生たちの中から、外国のラジオ・クラブに負けない日本のクラブを作ろうと出来たのがこのクラブである。1952年7月に最初の会誌が発行された。当初から国際クラブを目指したJSWCは、月刊の会誌を英文で作成し、広く海外の会員を集めた。

クラブ本部のあった仙台市にはクラブ創立当時まだ米軍基地があり、米軍放送のFENもあったそんな時代であった。しかし、意気軒昂なクラブの創立者たちは、どんどん海外に宣伝し、初年度から海外の数カ国の放送局からクラブ向けの特別放送を実施してもらい、一年余で会員も10カ国から100名という大台に乗せ、以後着実に成長して行った。

それから25年経過した1970年代には、いわゆる「BCLブーム」が起き、海外放送受信が一つのファッションや社会現象になるという海外には見られない稀有な現象も起きた。そのお陰で、短波はそれまでの自分で作る受信機で聞く時代から買うラジオで聞く時代に大きく変わった。

その時代から35年、今年記念すべき60周年を迎えることが出来た。勿論、この60年にわたるクラブの歴史の中では厳しい時代もあった。しかし、いつもこの楽しい趣味を消さないように努力してきたクラブの幹部の方々、そして多くの会員の情熱が60年という長いクラブの存続を支えてきたといえる。

クラブ創立頃の海外のイベントは全て短波による中継で、英国のエリザベス女王の戴冠式も、サンフランシスコの日米講和条約の調印中継もフェーシングを伴った音声でNHKラジオにより放送された。今時代は変わり、殆どのイベントはナマの衛星テレビ中継となり、短波の出番は殆ど無くなってしまった。一方放送自身も「インターネット」の出現で有線化が進み、更に携帯端末の発達で世界の情報に移動しながらのアクセス可能な時代になった。

このような時代、これからの短波放送の行き先が気にはなるが、誰でも自由に簡単なラジオで聴取できる電波による放送は永久に無くならないメディアであり続けると考えている。

日本短波クラブ提供

HCJB日本語放送

新住所: HCJB (日本語放送) 5701 N INDIAN TRAIL TUCSON AZ 85750 USA



日本短波クラブからのお知らせ

今回の日本短波クラブ60周年記念特別番組に対する受信報告書を下記日本短波クラブ宛にお送り頂くと、日本短波クラブ発行の特別ペリカードを送付いたします。

電子メールで受信報告をお送りいただく場合のアドレスは、

jswcqs1@live.jp

です。この場合は、記念の特別電子ペリカードをお送りします。

又、郵便で受信報告をお送りいただく場合の宛先は、

郵便番号 248-8691
日本郵便鎌倉支店 私書箱44号
日本短波クラブ QSL係

です。日本国内から郵便でお送りくださる場合は、90円切手を貼った返信用封筒を同封してください。海外から郵便でお送りくださる場合は、国際返信切手券（IRC）1枚、あるいはアメリカの1ドル紙幣2枚を同封してください。その場合は、紙に印刷された記念の特別ペリカードをお送りします。

以上

ライフ、4) 今後、クラブやBCLライフでしたいことなどを、一人ひとり話をお聞きしました。

お話の中、これからの会の運営は、電波による放送受信だけでなく、インターネット放送についても取り上げるべきだというお話もお聞きし、時代の変遷を実感しました。

最後に、日本短波クラブの理事長の石川さんにも、日本短波クラブの入会当時のお話やDXハンターの話、今後の日本短波クラブの扱う題材などについてお話頂き、インタビューを終了しました。

湘南ミーティングにてインタビューにご協力頂いた皆さまは、石川さん、大武さん、森下さん、水内さん、飯塚さん、佐野さん、松永さん、丹野さん、笹川さん、赤林さん、及川さん、西口さん、平原さんです。

後日、地方の会員の方々にもお話をお伺いしたいということで代表として、広島の高橋伸さん、京都の永野正和さん、三重の川添充則さんにもインタビューさせて頂きました。日本短波クラブの皆さま、ご協力ありがとうございました。今回、地方の方々とは、インターネットのSKYPEを使ってインターネット電話でのインタビューをさせて頂きました。時代は、インターネット時代なのですね。あらためて実感した次第です。

岩沙一彦



『サタデー・トーク』		『バイブル・トーク』	
きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		東京淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
7月 7日	私の音楽人生 松田健一郎 (3)	7月 1日	聖書遊覧バス (27)
7月14日	日本短波クラブ60周年・・・会員にきく (1)	7月 8日	聖書遊覧バス (28)
7月21日	日本短波クラブ60周年・・・会員にきく (2)	7月15日	リスナーからのお便り紹介番組
7月28日	日本短波クラブ60周年・・・会員にきく (3)	7月22日	聖書遊覧バス (29)
		7月29日	聖書遊覧バス (30)

放送後の番組は、ホームページ (<http://japanese.hcjb.org>) のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3形式)

放送時間：日本時間午前7時半～8時

放送周波数： 15525kHz 19mb)

(米国アリゾナ制作/オーストラリア送信)

HCJB日本語放送

新住所：HCJB (日本語放送) 5701 N INDIAN TRAIL TUCSON AZ 85750 USA